原産地中国と金魚で交流

宮浦支部 坂口さん訪中

三池労組にも金魚愛好者は三池斗争中にふえ、サークル活動が行われているが、愛好者の一人、宮浦支部の坂口直行さんがこのほど金魚の交流で中国を訪問することになりみんなの話題をあつめている。

ごじまんの金魚に目を細める坂口さん

庭には数百匹も

坂口さんは家（宮原社宅）の庭に池を三つもつくり、三年もの二年ものの金魚をはじめコイなど数百匹をかっている。

坂口さんの御自慢は三年ものの「ししがしら」と呼ばれる一つがいの金魚で、もし売りに出すならば時価数万円はするでしょうと坂口さんは目を細めている。

中国から招待うける

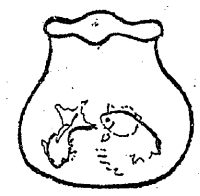
坂口さんと中国の金魚愛好家との交流はすでに一年近くにもなる宮浦支部の政治局員蓮尾信治郎さんが中国を訪れたとき、三池の労働者の中にも金魚愛好家がいることを中国の人々につたえ、蓮尾さんを通じて中国と交通するようになった。

中国からは金魚の飼い方や中国にいる金魚の珍らしい種類を示す絵ハガキなどが坂口さんのところに送られてきており、そのような交通の中から中国招待の話が持ち上ったものである。

産地をみてくる

坂口さんは七月の末から八月いっぱい訪中の予定だが、金魚の産地のほかに、やはり中国の炭鉱労働者のたたかいの様子をみてきたいという。

「私が三池の労働者であるということで招待してくれるのでしょうから、三池の労働者がこんな趣味を持っているということを知ってもらい、あわせて三池のたたかいを紹介してきたい」と希望に胸をふくらませている。



われら五人組 ⑫

「奥さんの仕事まではせんですバイ」

説得をハネ返す（上）

ここに紹介する本所支部資材分会の五人組は、三池労組、第二組合を合わせたよりも班制の方が多いという、本所支部特有の班場でたたかっている。部長、課長各一名、係長二名、係員九名、第二組合員は三名で、しかも三池労組は同一班場の三名のうち、男一名、女二名である。（この五人組は他の班場の人も含んでいる）

【出席者】
山本 秀輝さん（組長）
西田イツ子さん
奈良ツヤ子さん
松島 清人さん

「もう停年前だろが…」

昨年秋から今年のはじめにかけての会社のはげしい切り崩しはこの班場でもあらわれ、係員が中心になりながら第二組合員の中で説得班を作って家庭訪問をはじめたねらわれたのは西田さん、奈良さんの二人の女性で、とくに五二才の奈良さんには、えげつない攻撃がかけられてきた。

――私のところは四回も来たですョ。息子がつとめている店にまで行って「お母さんに新労に行くように言ってくれ」というし、二回目は班員が二人も来て「もう停年前やけん、いまのうちに行っとるなら退班金もふえるから……」というので、「私は金のことは目をくれんから」といって追いかえしました。

三回目は、班員が私が会社から帰るのを途中で待ちぶせして家までずっとついてきてはなれんとですョ。四回目は近所の宮浦支部の人が追払ってくれました。

――私のところには、主人のつとめ先の親方が班員について説得にきました。主人を通じていわせたらいうことときくと思ったのでしょう。私がその親方に「私が三池労組におることがそんなにめいわくなら、主人に仕事をやめさせますから」といったら親方は、「いや辞めてもらったら困る」といってあわてていました。

班員もさすがに調子悪くなって「今度から一人でくる」といって帰りましたが、その後は来ない。

私用はやめる決定

――こんな攻撃にどう抵抗するかを五人組で討議しましたが、四回目の説得にくれば対抗手段をとることを決めていたので早速みんなで討議してつぎのように決めました。

一、こんご説得に来たら、わざと家の上にあげておいて五人組で抗議に行く。

一、班員や部、課長の私用はとわる。

一、その他不当な作業はしない。

女は上役のドレイなみ

――女の人が班場で強要される私用には、どんなことがありますか？

――まず、女の人は（三池労組の人はそんなにひどくはありませんが）班員の昼めしの世話をせにゃならん。班員によってはパンを買いにやらせたり、給食センターから弁当をとったりするので、その注文とりから買い物、弁当がゆきわたったかどうか、班場中を走りまわって調べる、それからその集金。もし注文品がちがってでもいたら大変です。自分の弁当はたべるひまがないくらいです。

――部、課長などにはパンを焼いてバターまでつけてやる。おかずを持ってきておれば皿に移しかえて持ってゆく。要するに奥様のする仕事はぜんぶですタイ。

――三池労組の人はいまでこそそんなことはしませんが、第二組合の女の人は班員の作業衣を洗濯したり、班員のタオルが汚れておれば持って帰って翌日きれいにして差出すといった調子です。

一人分の仕事の他にそんなことをさせられるのでとてもたまらない。

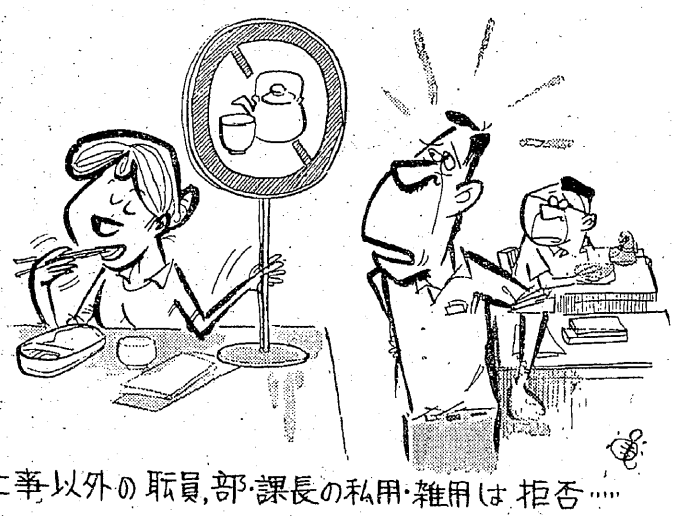
――弁当をたべるときでも途中で班員や、たまには第二組合員の男からも「お茶くれ」といわれたら（食事前に一度ついでいても）自分はたべるのをやめてわざわざつぎに行かなければなりません。

電話は女がとるもの？

――班員は電話が自分の前で鳴っていても絶対にとらない。部屋の一番奥にいる部長にかかってきた電話でも、まず部屋の入口で仕事している女の人がまずとって、わざわざ部長の前まで行き、そこにある電話器の受話器をとって切り換え、「部長お電話です」と差し出さねばならないといった状態です。

――本来の仕事以外の、こんな私用やドレイのような雑用は、説得に対する対抗手段として拒否すると決めたわけです。

（つづく）



仕事以外の班員，部・課長の私用・雑用は拒否……

政府と会社の強い結びつき

―中央行動に参加して―

炭労が今回実施した中央行動の主たる目的は、六月二七日予定される本格答申を前にして側面から圧力をかける行動であったことはもちろんだがより基本的には、答申前後のたたかいの熾烈さを屋望するとき、それと対決する内部体制の強化が急務であり、統一行動による主体性確立が今次行動の主要な目的でありました。

久山立次長記書

行動の内容

一、石炭産業・産炭地危機突破大会

二一日午前一〇時より社会文化会館において、社会党・炭労・総評共催で炭労各支部代表二四〇名と産炭地域代表一五〇名の参加によって盛大に行なわれました。しかしこの大会の空気は社会党の院内斗争を中心に五、五〇〇万トンの実行を迫るとか国有化斗争という条件斗争的性格のものでありました。

ただ太田議長だけは、鉱山を残してくれの陳情などすべきではないという考えがつよく、反対斗争が中途はんぱになる恐れがあります。

内部体制の確立がいそがれます。むしろ決戦に望む決意と体制を一人ひとりの炭鉱労働者が作ることだと力説し多くの共鳴をうけました。

二、通産省に対する行動

二一日午後一時から全員が通産大臣室前の廊下に座り込み、代表三〇名を選び三木通産大臣・次官・井上石炭局長などと二日間（二二日も）にわたり交渉した。

しかし当局は政府資金で企業を救えば炭鉱も立ち直り七%の賃上げ規制も解消する。そのためには一時的首切りや労働強化はしかたがないと豪語するしまつでした。

三、大蔵省交渉

二三日に行動しましたが当局側は武装警官を導入してはじめから弾圧の構えをみせ、権力の本質をみせつけました。

内部体制をつよく

炭労の内部には「政府の助成策がなければヤマがつぶれる」という考えがつよく、反対斗争が中途はんぱになる恐れがあります。

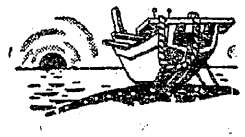
内部体制の確立がいそがれます。

私の書棚

松田解子著
『おりん口伝』

明治時代、没落地主の娘おりんが秋田の鉱山にとつぎ、三菱大独占資本に殺された夫のあとをうけついでみずから鉱山労働者として生きるまでを描いた作品。現在の資本主義が、私たちの父母、祖父母のいかに大きな血の犠牲によって築かれたものであるか。この小説はひとりの婦人の歴史を通じてそれをなまなましく語っている。力作である。（新日本出版社・四二〇円）

アリス・ハーズ著
芝田進午編
『われ炎となりて』

昨年三月、ベトナム侵略政策に抗議して焼身自殺した八十二才のアメリカ婦人の書簡集である。

「めざめてたちあがってください！あすではおそすぎるのです」とアメリカ国民と世界の人民に訴える真情が全書簡にあふれている。日本の松川事件や砂川事件にも深い関心を寄せていた著者の書簡から、アメリカの平和、婦人運動の現状もわかる。（弘文堂・三八〇円）